

【研究論文】

図工授業力の育成を目指した模擬授業指導 ～平成30年度「図画工作科教育法」と「教育実習Ⅰ」の段階性・連続性を意識して～

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 佐伯 育郎

はじめに

地方の小規模私立女子大学である広島文教女子大学（以下、本学）において、筆者は図工授業力の育成を目指した図画工作に関する講義・演習を担当している。図工授業力とは、図画工作科の授業を実践するために必要な資質・能力である。図工授業力は、図工的教養（能力）と授業実践力（資質）の2側面から成り立っている¹⁾。図工的教養と授業実践力を兼ね備えた教師を「図工授業力のある教師」として自分なりに定義し、4年間の授業を通してその育成を構想・実践している。

| 図工授業力 | |
|--|--|
| 図工的教養 | 授業実践力 |
| 教科に関する専門性 | 教育に関する専門性 |
| 能力 | 資質 |
| ・ 図画工作科・アートとデザインに関する知識・技術（色・形・質感・材料・用具・技法など） ・ 教材研究・題材開発する力（学習指導案・参考作品・教材・教具など） ・ 示範（演示・実演）する力 | ・ コミュニケーション能力（机間指導・言語活動など） ・ プレゼンテーション能力（板書・演技力など） ・ 児童を支援・指導する力（個別指導・臨機応変な対応など） |

【表1：筆者が構想している図工授業力】

筆者が担当する主な図画工作の授業には、1年次前期「図画工作」、2年次後期「図画工作科教育法」などがある。3年次前期「教育実習Ⅰ（小学校）」では、8教科の模擬授業がグループ別に行われる。そのうち1教科が図画工作科である。学生に対して図画工作について指導する機会は決して多いとは言えないが、教育実習を主軸としつつ指導内容を充実させ、学生の図工授業力を向上させたいと考えている。

以下、観察実習（教育実習Ⅶ）を終えた2年次後期、本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）前の3年次前期との接続に焦点を絞り、平成30年度における「図画工作科教育法」と「教育実習Ⅰ（小学校）」の実践を中心として、図画工作科の授業における模擬授業指導を図工授業力の2側面、図工的教養と授業実践力の観点から分析・考察する。模擬授業後に学生が記述した感想、協議会の内容などを検討する際の資料として用いる。教職課程教育の一環として実施している図画工作科の模擬授業指導の現状と課題を示し、教師教育における学生の図工授業力を向上させる手がかりを得ることが目的である。読者各位の忌憚のないご批評を賜りたい。

I 2年次後期における図画工作科・模擬授業指導

1. 図画工作科教育法の全体像

図画工作科教育法は、小学校教諭一種免許状取得必修教職科目・幼稚園教諭一種選択科目であり、16回からなる講義科目である。ねらいと概要、授業計画、到達目標は以下の通りである。

【ねらいと概要】

・本学科における一連の図工関係の授業では、図工授業力の育成を目指しています。図工授業力とは、図工的教養と授業実践力から成り立っています。第2ステージである2年次のテーマは、「図画工作科教育・子どもの造形的発達の理解」です。本授業では、授業実践力の基礎を培うとともに、さらなる図工的教養の育成を目指します。

本授業は、小学校で図画工作科の授業をするために必要な専門性を養い、教師としての資質・能力を高めることを目的としています。主に講義を通して、図工に関する知識や理論を学びます。学習指導要領や子どもの造形的発達などを踏まえ、実際に題材開発・教材研究（学習指導案、参考作品の作成）に取り組むことによって、実践力の育成も目指します。最終講では、代表者による模擬授業を45分間行います。積極的に参加して下さい。

【授業計画】

| 講数 | 学修内容 |
|--------|-------------------------|
| 1講 | オリエンテーション |
| 2～3講 | 学習指導案、教材研究って何？ |
| 4講 | 見てみよう！図工・美術の教科書 |
| 5～7講 | 子どもの絵について知ろう！ |
| 8～9講 | どんなことするの？ 図工の授業～造形遊び |
| 10～11講 | どんなことするの？ 図工の授業～絵や立体に表す |
| 12～13講 | どんなことするの？ 図工の授業～工作に表す |
| 14～15講 | どんなことするの？ 図工の授業～鑑賞 |
| 16講 | 頑張ろう！ 代表者模擬授業、まとめ |

【到達目標】

- ① 図画工作科・学習指導要領の目標や内容、子どもの造形的発達について理解する。
- ② 図画工作科の学習指導案について理解し、自分で作成することができる。
- ③ 題材開発・教材研究に取り組み、自分で参考作品を作ることができる。
- ④ 本授業で学修したことを活かして、授業者・学習者として模擬授業に取り組むことができる。

2. 最終講における代表者模擬授業

最終講である16講では、代表者による模擬授業を45分間行っている。図画工作科教育法は2クラス・2コマの授業（今年度は木曜日1・2コマ）であるため、毎年2人の代表者による模擬授業を行っている。代表者による模擬授業は、筆者が本授業を担当するようになった平成13年度から継続している。筆者による推薦の場合も稀にあるが、殆どは学生による立候補で成立する。1講のオリエンテーションで事前調査シートによるアンケート調査を行い、その後集計をして、2講で学生に結果を提示する。立候補者がいない場合は、2講以後の授業内で立候補するよう呼び掛けている。今年度の学生（初等教育学科2年生・37期生）は、授業者2人のうち1人（木曜日2コマ）は1講の事前調査シートで立候補の意思表示をした。もう1人は、11月の授業後で立候補の意思表示をして、代表者2人が決定した。代表者と筆者は事前に打ち合わせを行い、学習指導案の添削、材料・用具、環境設定などの準備を行う²⁾。今回の代表者は、2人とも空きコマを利用して図工の教室に来て、教材研究を行い、複数の参考作品

を事前に仕上げた。木曜日2コマクラスの代表者とは、模擬授業の練習（いわゆる模擬模擬授業）を行うことができ、筆者なりに助言をすることができた。

2019年1月24日（木）1・2コマの最終講において代表者模擬授業を行った。代表者以外の学生は、児童役として模擬授業に参加する。模擬授業後、学生に代表者模擬授業感想レポートを記述・提出させた（写真1）。木曜日1コマクラスは出席者34人中32人の提出（回収率94%）、木曜日2コマクラスは出席者42人中40人の提出があった（回収率95%）。授業後、筆者からも講評を述べ、授業全体のまとめをするなどして最終講を終了した。

代表者模擬授業感想レポートにおける学生の感想・意見を筆者なりに端的にまとめて分類し、成果と課題とに分けて考察する。感想・意見の分類に関しては、筆者が構想・実践している図工授業力を観点として用いた。

代表者模擬授業・感想レポート（第1）

代表者模擬授業・感想レポート（第2）

【写真1：代表者模擬授業・感想レポート】

3. 代表者模擬授業①「ドッキドキどんな形ができるかな？」（工作に表す）木曜日1コマクラス

小学校第2学年を対象とした「工作に表す」題材である。折り紙や色画用紙を折り、ハサミを使って切り込みを入れたり、切り抜いたりした後、紙を広げると対称形の切り紙ができあがるという内容である。全4時間扱いのうち第2次の1時間目を本時として、代表者模擬授業を行った。第1次の2時間では、切り紙について理解した後、台紙に貼って作品を仕上げたという設定になっている。第2次は、既習した切り紙の応用として鬼のお面を作る授業となっている（学習指導案は省略）。授業の時期を考慮し、季節の行事を取り入れた内容にした。導入後、展開においてまず折り紙によって練習をした後、八つ切りサイズの色画用紙を使って鬼のお面を作るといった流れである。授業者は、2年次における他の教科教育法においても模擬授業を行った経験のある学生であった。模擬授業の様子、成果と課題は以下の通りである（人数は述べ）。





【写真2～5：代表者模擬授業の様子（木曜日1コマクラス）】

【成果】

図工的教養に関して

- ・ 節分という行事や季節感を活かしており，児童の個性が生まれやすい題材であった。(15人)
- ・ 前時との繋がりを踏まえた授業展開が効果的であった。(11人)
- ・ 導入題材による練習が効果的であった。(10人)
- ・ 複数の参考作品も魅力的であった。(6人)
- ・ 題材観・児童観・指導観のつながりがあり，学習指導案がよく書けていた。(1人)

授業実践力に関して

- ・ 授業者が参考作品を身に付け，音楽を流しながら登場する導入に工夫が見られた。(20人)
- ・ 発表した児童を先生役にして説明をさせ，クラス全体に学びの要点を共有していた。(15人)
- ・ 机間指導など，児童とのコミュニケーションが優れていた。(11人)
- ・ 板書で図示し，視覚的な支援をしたところがわかりやすかった。(10人)
- ・ 声の大きさ，話し方，明るいキャラクターが教師役に合っていた。(8人)

【課題】

図工的教養に関して

- ・ 材料・用具に関する練習が不足していた。(6人)
- ・ 参考作品の見せ方に物足りなさがあった。(4人)
- ・ 新聞紙，ステープラーなど，用意した材料・用具をすべて活かしてきれていなかった。(3人)
- ・ 教師の発言に，めあてとのずれがあった。(2人)
- ・ 表現が多様になるためには他の材料も用意するとよかったのではないか。(1人)
- ・ 教師がその場で示範（演示・実演）をしたらよかったのではないか。(1人)

授業実践力に関して

- ・ 導入に時間がかかり過ぎたため，展開・終結に余裕がなく，時間配分に改善の余地があった。(12人)
- ・ 説明・指示不足のところがあった。(12人)
- ・ 第2学年には難しい言葉（居座る，生じる），口癖（ちょっと）が目立つなど，言葉遣いが気になった。(9人)
- ・ 発言しない児童，図工が苦手な児童への対応をもっと充実させるべきであった。(3人)
- ・ 板書では，図示はよかったが，文字はもっと丁寧に書くべきであった。(1人)
- ・ 楽しい雰囲気ではあったが，けじめを付ける部分，メリハリも必要であった。(1人)

図工的教養，授業実践力の双方に，成果と課題があった。参考作品とその提示方法，児童の発言に対する臨機応変な対応などについては，概ね肯定的な評価が多かった。時間配分，説明・指示，板書などについては問題点を感じた学生が認められた。代表者は，余裕を持って教材研究を行っていたが，前日の準備（環境設定や材料・用具の準備など）や模擬授業の練習を怠った（筆者から教材研究については助言することができたが，模擬授業自体について助言をする機会がなかったことも一因であろう）ため，展開・終結の部分で計画通りに進めることができなかったものと思われる。しかし，臨機応変な対応，児童とのコミュニケーションは充実していた。例えば，作り方について児童から質問が出た際，よくできている児童を前に出させて，板書も用いてクラス全体に説明させていた。そういった面では授業実践力に長けた授業者であったことが伺える。

4. 代表者模擬授業②「心のもよう」（絵に表す）木曜日2コマクラス

小学校第5学年を対象とした「絵に表す」の題材である。クレヨン・パス，色鉛筆，カラーペンなどの画材を用いて自分の気持ちを画用紙に表現するという内容である。全2時間扱いのうち第1次の1時間目を本時として，代表者模擬授業で行った（学習指導案は省略）。授業者は，模擬授業を行った経験のない学生であった。模擬授業の様子，成果と課題は以下の通りである（人数は述べ）。



【写真6～9：代表者模擬授業の様子（木曜日2コマクラス）】

【成果】

図工的教養に関して

- ・参考作品が複数あり，制作の見通しを持つ上で効果的であった。（30人）
- ・ICTを活用したクイズ形式の導入が効果的であった。（27人）
- ・複数の画材をトレイに準備しており，活動しやすかった。（6人）
- ・上手・下手のない題材であり，自由に描けるよさがあった。（1人）

授業実践力に関して

- ・机間指導など，児童とのコミュニケーションが優れていた。（29人）

- ・発表の場面、指示などにおいて、児童の発言を活かす臨機応変な対応が見られた。(23人)
- ・常に笑顔であり、優しい雰囲気が教師役に合っていた。(6人)
- ・後片付けも45分内に収めるなど、時間配分が適切であった。(1人)
- ・導入での話、実体験でのエピソードが、効果的であった。(1人)

【課題】

図工的教養に関して

- ・具体的な形を描かずに表現するという制作の条件がわかりにくかった。(8人)
- ・表現技法や画面上での効果、色や形といった造形要素にもっと着目してもよかったのではないか。(8人)
- ・コンテの数を増やしたり、折り紙なども用意したりして、画材をもっと多様にしてはどうか。(5人)
- ・材料・用具についての説明を、もっと充実させてはどうか。(4人)
- ・児童の作品の裏に、名前や気持ちだけでなく、教師の例のように気持ちの理由やエピソードも描かせてはどうか。(3人)
- ・絵にする気持ちを1つ指定して、クラス全体で比較させたらよかったのではないか。(1人)

授業実践力に関して

- ・声が小さかったため、声量を大きくし、メリハリを付けてはどうか。(9人)
- ・「どんな気持ちがあるかな？」などと、気持ちを発想しやすくする言葉掛けや例示があればよかった。(5人)
- ・ICTを活用してはいたが、プロジェクターを消すとめあてなどが消えてしまうため、板書も併用してはどうか。(4人)
- ・環境設定の影響もあるが、教師の動線にやや偏りがあった。(3人)
- ・導入でのクイズの時に、「正解・不正解」と言っていたが、本来決まった正解がないため別の表現をするべきだったのではないか。(3人)
- ・作品の実物を見せて回っていたが、参考作品のサイズが小さくて見えにくかった。(3人)

図工的教養、授業実践力の双方に、成果と課題があった。複数の参考作品、ICTの活用、児童の発言に対する対応については、概ね肯定的な評価が多かった。ICTの活用とは、PowerPointのスライドショーを事前に作成し、導入においてiPadとプロジェクター、スクリーンを使用して提示したことであり、児童に見通しを持たせ、動機付けを促す点で役立った。展開における作品制作の場面では、児童の質問に対して授業者は「雑に2枚描かずに、気持ちを込めて1枚描いて、できたら2枚目を描こう」と言っていた。終結において、つまようじやティッシュペーパーを用いて独自の工夫をしている児童の作品を取り上げ、今回はこの例のように別の道具を用いた工夫をしてもいいとクラス全体に伝えた。これらはすべて授業者によるアドリブであり、この点についても評価が高かった。制作の条件についての説明、声量・話し方などについては難しさを感じた学生が認められた。特に、作品制作の条件である「具体的な形(物)を描かない」という点が、児童役の学生に伝わりにくかった。個別指導によって対応できてはいたが、この点については、改善の余地が認められた。

代表者2人には、すべての代表者模擬授業感想レポートをコピーして、3年次に渡す予定である。今回の学びを、3年次の教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ・Ⅲへとつなげて欲しいと考える。

Ⅱ 3年次前期における図画工作科・模擬授業指導

1. 教育実習Ⅰの全体像

教育実習Ⅰは、小学校教員一種・幼稚園教員一種必修の実習科目であり、1.5コマ分の授業である。ねらいと概要、授業計画、到達目標は、以下の通りである。

【ねらいと概要】

- ・本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。前年度に終えた観察実習（教育実習Ⅶ）の体験、各教科教育法の学びをふりかえり、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。

小グループに分かれてからは、教材研究・教材開発、模擬授業、授業後の協議会に取り組む。授業外の時間を活用して、模擬授業に関する担当教員との打ち合わせを行い、指導を受ける。指導を生かすとともに、模擬授業の練習・準備も自ら行い、充実した取組になるようにつとめる。模擬授業後は、自己評価を行い、担当教員に提出し、さらに指導を受ける。

教育実習Ⅰのグループ長を中心に教育実習報告会実行委員会を組織する。後期の本実習終了後は、実行委員会を中心に教育実習報告会を企画・運営・実施し、学習のまとめとする。なお、実習報告会も原則全員参加である。

本学における教育実習の特色は、省察性、協働性、同僚性、段階性、主体性、総合性である。

【授業計画】

| 講数 | (実施時期) 学修内容 |
|--------|---|
| 0講 | (1月下旬, もしくは2月上旬) 教育実習Ⅰオリエンテーション……趣旨説明, グループ決めなど |
| 1講 | (4月) 全体会……春休みの課題の提出, 各教員からの諸連絡・激励, ルーブリックの説明など |
| 2講 | 全体会……教師による示範授業, 今後の取組についてなど |
| 3～8講 | 第1クール 模擬授業Ⅰ～Ⅲ・第2クール 模擬授業Ⅰ～Ⅲ（Ⅲで中間の振り返り） |
| 9講 | 4年生との「実習報告会」引き継ぎ会 |
| 10～13講 | 第3クール 模擬授業Ⅰ～Ⅲ・第4クール 模擬授業Ⅱ～Ⅲ |
| 14～15講 | 代表者による全体研究授業Ⅰ・Ⅱ |
| 16講 | 全体会……教師による総括・激励, 教育実習Ⅰの振り返り |

【到達目標】

- ① 各教科・領域の復習, 参考資料（学習指導案・先行実践例）の収集, 教育者の実践や指導技術・指導法についてのレポート課題に取り組み, 基礎をかためる。
- ② 各教科・領域の学習指導案について理解し, 自分で書くことができる。
- ③ 教材研究・教材開発に取り組み, 教材・教具なども準備することができる。
- ④ 学習したことを活かして, 授業者・学習者として模擬授業に取り組むことができる。

2. 第1クールから第4クールまでの模擬授業

3年次前期に実施される教育実習Ⅰは、教育実習Ⅱ・Ⅲのための事前指導であり、小グループで、教材研究や模擬授業に取り組むものである。3年次後期に控えている本実習に臨むに当たり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことをねらいとする。2年次の観察実習（教育実習Ⅶ）の体験、各教科教育法の学びを振り返り、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。2年次後期のオリエンテーションも含めると、17講から成り立っている。3講から小グループに分かれ、教材研究・教材開発、模擬授業に取り組む³⁾。通常15～20分間で模擬授業を行い、その後協議会を行う⁴⁾。平成30年度は、受

講者（初等教育学科3年生・36期生）全61人中21人の学生（34%）が図画工作科の模擬授業を実践した⁵⁾。図画工作科の模擬授業で扱われた題材は、絵や立体、工作に表すなど、多岐に渡った。

3. 全体研究授業Ⅱ・図画工作科「どんな模様ができたかな? ～切って開いて不思議な模様～」

2018年7月26日（木）4・5コマの15講において全体研究授業Ⅱを行った。代表者以外の学生（A～Dグループ）は、児童役として模擬授業に参加する。今年度は、3人の学生による立候補（算数、音楽、図画工作）、教員が推薦した1人の学生（理科）、計4人で全体研究授業Ⅰ・Ⅱを行った。立候補者のうち1人の学生が、図画工作科での模擬授業をしたいと申し出た。第1学年を対象とした「絵や立体、工作に表す」内容である。題材である切り紙は、基本的には工作の範疇に入るが、台紙に貼り、絵画的な表現も行うことから、このような分野を跨ぐ位置付けとした。授業当日、学生・教員に配付した学習指導案は以下の通りである（10.板書計画は省略）。

第1学年 図画工作科学習指導案

指導者 教育実習生 A学生

1. 日 時 平成30年7月5日（木）第4校時
2. 場 所 第1学年3組教室
3. 学 級 第1学年3組（男子20名・女子20名 計40名）
4. 題材名 どんな模様ができたかな? ～切って開いて不思議な模様～（絵や立体、工作に表す）
5. 題材について

（1）題材観

本題材は、学習指導要領の内容項目A表現の（1）「イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。」と（2）「イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。」とB鑑賞の（1）「ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。」と共通事項（1）ア「自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。」に位置する。本題材では、はさみと折り紙、画用紙などを使って、様々な模様の切り紙をつくり、構成する活動である。紙を二つまたは複数に折り重ねる。それを切って開くことによって、対称の形や花のような綺麗な形、模様を作ることができる。できた形から何に見えるか想像して構成したりすることで、目標の形に向けて試行錯誤しながら紙を切ったり、紙を用いた表現のおもしろさを味わったりすることができる上からも意義ある題材である。

（2）児童観

本学級の児童は、図画工作科に対して意欲的に取り組んでいる。アイデアがすぐに思いつく児童もいるが、なかなか自分の考えがまとまらない児童もいる。そのような児童は、自ら先生の力を借りようとする行動ができる。児童は、はさみを幼児期にも使ったことはあるが小学校での持ち方や注意することなどの指導は今回が初めてである。児童の中には、集中力がもたない児童もいる。はさみと自分専用の折り紙については常にお道具箱に入っており、はさみは利き手用のものを持っている。

（3）指導観

指導に当たっては、はさみの取り扱い方に注意をさせ、安全に活動できるようにする。左利きの児童もいるので説明などの時には配慮するようにする。まずは、何をどうすれば良いか分からない児童のために、全員で簡単な対称の形と花をつくる。児童の想像力を大切に、それを十分に引き

出せるように支援していく。特に活動が止まっている児童や丁寧に活動させたい児童へは最後までつくる意欲を保たせるよう言葉掛けをしたり、他の児童と協力したりして活動できるように促す。偶然の面白さを伝え、それに気づかせるような言葉がけをする。班で一つの作品を作り、友達と共感しあう大切さを味わわせたい。最後に全員で一つの作品を作り、完成の達成感を味わわせたい。第一次では、正しいはさみの持ち方を学習し、ちょうちょと花を作成し、班で一つの作品にする。次時では、前時で学習した花の模様の工夫点から様々な形の切り紙を作成して、個人の作品を作り発表する。発表では、自分の作品と友達の作品の違いに気づき、工夫点を見つけさせたい。第二次では、学級発表での装飾を全員で作成する。

6. 題材の目標

- はさみを安全に正しく使って切り紙を作り、構成することができる。(知識及び技能)
- 紙の色、折り方や切り方などを選び、自分なりに表現しようとする。(思考力・判断力・思考力)
- 切り紙の面白さ、対称的な形の美しさに気づき、意欲的に制作することができる。(主体的に学習に取り組む態度)

【学習指導要領の内容項目 A (1) イ, (2) イ, B 共通事項 (1) ア】

7. 評価規準

| ア 知識及び技能 | イ 思考力・判断力・表現力 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| ① はさみを安全に正しく使うことができる。 ② 作った切り紙の組み合わせを工夫し、構成することができる。 | ① 自分や友達の切り紙の表現の違いに関心を持ち、工夫点などを見つけている。 ② 紙の折り方や切り方などを選び、自分なりに表現することができる。 | ① 切り紙の面白さ、対称的な形の美しさに気づき、意欲的に制作することができる。 |

8. 指導計画 (全3時間)

| 次 | 学 習 内 容 (時数) | 評 価 | | | | |
|---|--|-----|---|---|--|------------------------------|
| | | 知 | 思 | 主 | 評 価 規 準 | 評価方法 |
| 1 | ○花や様々な形を作ろう。 (1) 一本時 ○いろいろな形を作ろう。(1) | ◎ | ○ | ○ | ・はさみを安全に正しく使うことができる。(ア①) ・自分や友達の切り紙の表現の違いに関心を持ち、工夫点などを見つけている。(イ①) ・切り紙の面白さ、対称的な形の美しさに気づき、意欲的に制作することができる。(ウ①) | 行動観察 作品 ワークシート 行動観察 |
| 2 | ○みんなで作ろう。(2) | ◎ | | ○ | ・紙の折り方や切り方などを選び、自分なりに表現することができる。(イ②) ・作った切り紙の組み合わせを工夫し、構成することができる。(ア②) | 行動観察 作品 発言 |

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

- はさみを安全に正しく使うことができる。
- 紙を折り、切ってできる形の面白さを味わう。

(2) 観点別評価規準

- はさみを安全に正しく使うことができる。(ア①)

(3) 準備物等

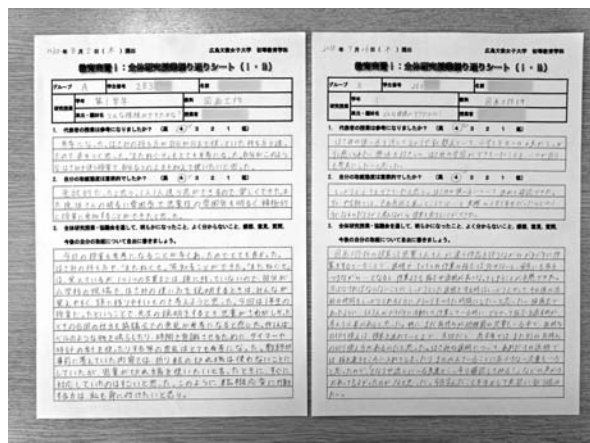
教師：予備の折り紙 (5セット), 画用紙 (各色3セット×9色), 参考作品 (2点), 紙コップ (7個), のり下紙 (50枚)

児童：はさみ、折り紙、でんぷんのり

(4) 学習の展開

| 教授・学習活動 | 指導上の留意事項 | 評価規準(観点)〈評価方法〉 |
|--|--|---|
| <p>〈導入10分〉 本時の学習内容を把握する。 T：「この作品に使われている材料は何だと思いますか?」 C1：「折り紙です。」 C2：「はさみとりのりです。」 T：描かれているのは、実はこれだけではありません。 本時のめあてを知る。</p> <p>めあて「はさみをただしくつかって、さがみをつくろう。」</p> <p>はさみの使い方について復習する。 ①利き手はキツネの形、反対の手にハサミ ②親指を下側の穴 or 小さい穴 ③中指と薬指を上側の穴 or 大きい穴 ④人差し指と小指を外側</p> <p>はさみマスターになろう まんなかできる たてできる ねもとできる ぐーぱーできる せいこう T：「お道具箱からはさみを出してください。」</p> | <p>学習する姿勢が整っているか確認する。 本時の学習内容を掴ませる。あらかじめ作っておいた参考作品を見せる。</p> <p>はさみの持ち方と約束を確認する。</p> <p>全員で声を合わせて読む。</p> <p>・左利きの子にも配慮した説明する。 ・はさみをケースに入れ机の端に置いておく。</p> | |
| <p>〈展開25分〉 ○班隊形にする。 ○台紙となる色画用紙を選ばせる。 ○花をつくる。 ①三角の形を三回折る。 ②切りたいところを鉛筆で描く。 ③紙を広げる。花の完成。 花が完成したら前にある折り紙を取り、各自で様々な形をきる。</p> <p>○のりで台紙に貼っていく。</p> | <p>・画用紙に似た色にならないように注意する。 ・教師のお手本を見た後に、制作する。 ・はさみを動かすのではなく紙の向きを変えて切っていく。 ・班の中で手助けをする。</p> <p>・配置を決めてから、のりで台紙に花を貼る。</p> | <p>・はさみを安全に正しく使うことができる。 〈行動観察〉</p> |
| <p>〈終結10分〉 ○作品について発表する。 ○本時の評価と次時の予告を聞く。 ○後片付けをする。</p> | <p>・本時の評価を伝える。 ・次時は一人一枚画用紙に切り紙を貼って、作品を作ることを伝える。 ・率先してする児童を褒め、全員で後片付けをするように呼び掛ける。</p> | |

模擬授業後、学生に全体研究授業・振り返りシートを記述・提出させた^(写真10)。図画工作科の全体研究授業では、出席者29人中29人の提出があった(回収率100%)。



【写真10：全体研究授業・振り返りシート】

全体研究授業後、協議会を行った。学生や教員からも多くの意見・質問が出た。筆者からも講評を伝え、司会者の学生が授業全体のまとめを述べて終了した。全体研究授業の様子、成果と課題は以下の通りである（人数は述べ）。



【写真11～14：全体研究授業Ⅱ・図画工作科の様子】

【成果】

図工的教養に関して

- ・はさみの使い方のルール「またねぐせ」が覚えやすく、効果的であった。（7人）
- ・はさみの使い方に関して、左利きの児童にも配慮した指導が見られた。（5人）
- ・参考作品が複数あり、イメージしやすく効果的であった。（2人）
- ・用紙の色を選べるなど、自己決定の場が複数あった。（2人）

- ・ICTを活用した示範（演示・実演）がわかりやすく，効果的であった。（1人）

授業実践力に関して

- ・作品制作中において，児童の発言を活かす臨機応変な対応が見られた。（12人）
- ・声量もあり，はきはきとした話し方，明るい立ち振る舞いが教師役に合っていた。（11人）
- ・机間指導など，児童とのコミュニケーションも効果的であった。（3人）
- ・作品制作における約束事，教師による指示が明確であった。（3人）

【課題】

図工的教養に関して

- ・めあてとまとめのつながりには，改善の余地があるのではないか。（2人）

授業実践力に関して

- ・作品制作中において，教師が説明する際に何らかの合図があるとよいのではないか。（10人）
- ・45分の間に行うことが多くあり，時間配分が難しかった。（3人）

図工的教養，授業実践力の双方に，成果と課題があった。言葉遊びによるルールの提示，ICTの活用，児童の発言に対する臨機応変な対応については，概ね肯定的な評価が多かった。言葉遊びによるルールの提示とは，いわゆるアクロスティックと呼ばれるものであり，最初の語をつなぐとある言葉になるというものである。今回は，はさみの使い方を「はさみますたーになろう またねぐせ（まんなかできる たててきる ねもとできる ぐーぱーできる せいこう）」と授業者は示した⁵⁾。ICTの活用とは，実物投影機とプロジェクターを使用して切り紙の作り方を示範（演示・実演）したことであり，児童に対する視覚的支援として役立った。展開における作品制作の場面では，切り紙の切れ端も作品に使っていいかという児童からの質問が出た。授業者による事前の設定では，切れ端を使うことにはなっていなかった。この質問に対して授業者は，児童の活動を一旦止めさせた上で，クラス全体にどうするか聞き，切れ端も使うことに変更すると決めた。これは授業者によるアドリブであり，この点についても評価が高かった。賑やかなクラスであったこともあり，授業者による説明などについては難しさを感じた学生が認められた。授業後の協議会においては，活動を止め，説明をする時にはベルを鳴らしたら前を向く，手や体を叩いて示すなど話を聞く合図を決めるといったアイデアが児童役の学生から出た。めあてではないものの，その次に重要である「またねぐせ」については終結で復習してもよかったのではないかという意見もあった。全体研究授業に参加した教員からは，児童が選択する機会が多かった点は評価できる，立ち振る舞いがやや大雑把な印象であった，「ぐーぱーできる」を「ぐーぱーちょき」にしてはどうか，掲示物で示していた紙を折る回数については強調すべきだったのではないかという助言を授業後の協議会においていただいた。筆者自身も参考になるとともに，授業者には今後の実践で活かして欲しいと考える。

おわりに

模擬授業後、「図画工作科教育法」では代表者模擬授業感想レポート、「教育実習Ⅰ（小学校）」では全体研究授業・振り返りシートにおいて、代表者の授業は参考になったか、自分の取組態度は意欲的であったかどうか4段階（4が高、1が低）で評価させた。2つの授業の段階性・連続性を踏まえ、同じ設問によって調査した。結果は図1・2の通りである。

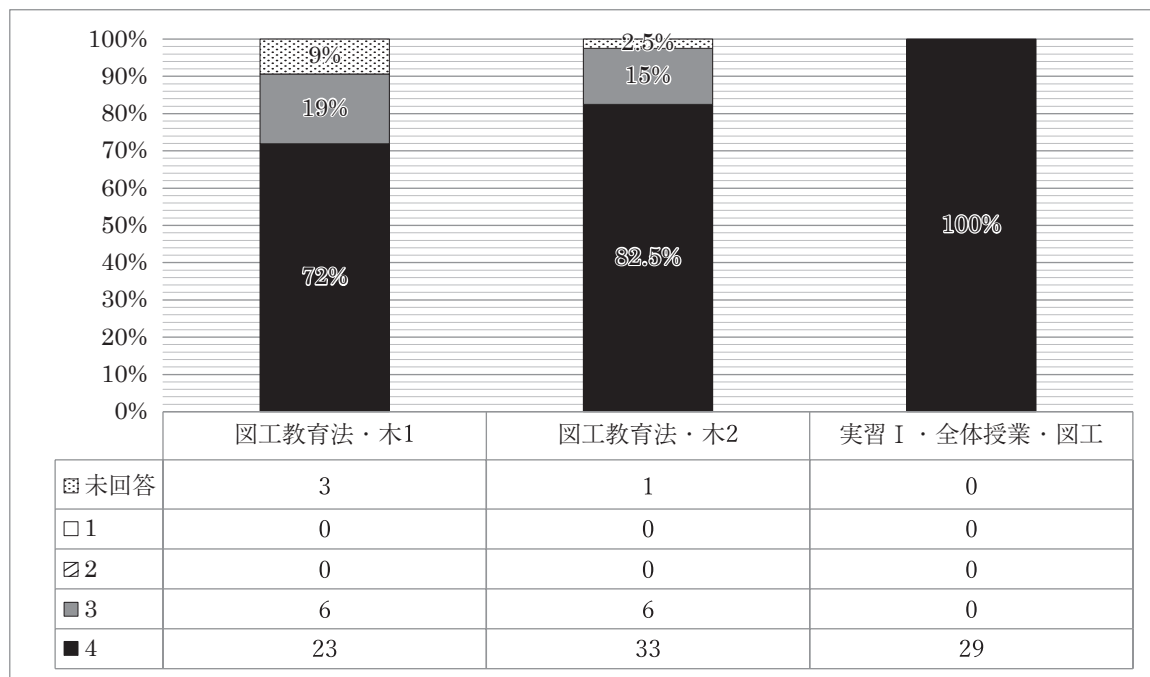


図1 【代表者の授業は参考になりましたか？】

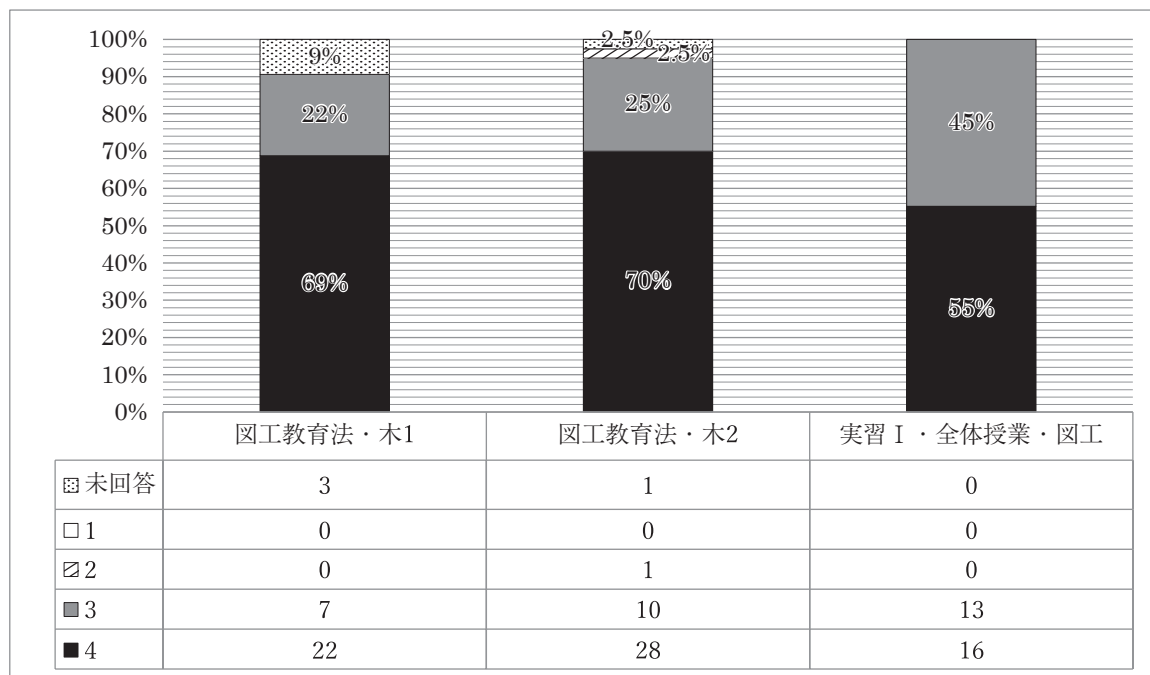


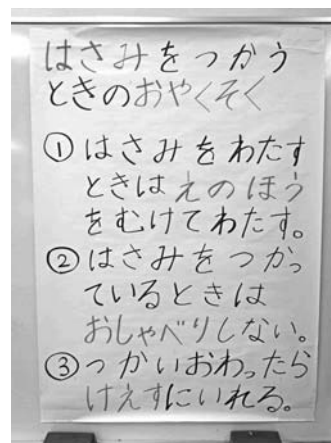
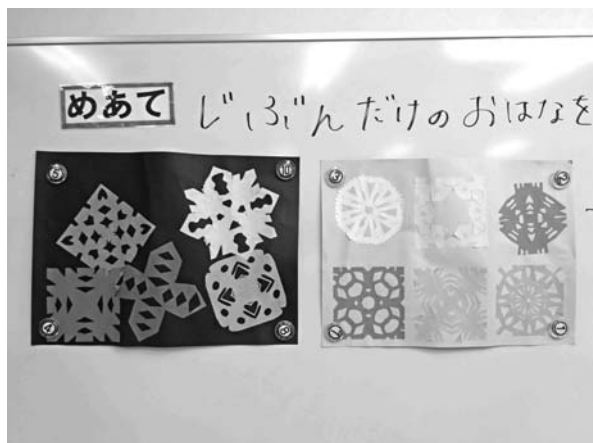
図2 【自分の取組態度は意欲的でしたか？】

グラフを見る限り、3以上の回答が多かったため、一定の成果があったものと推測できる。図1の教育実習Ⅰ・全体授業を見ると、全員が4と回答している。児童役のA～Dグループの学生は図画工作科の模擬授業を体験していないことに加えて、代表者の授業が質の高いものであったことがその要因であると推察する。課題に比べると成果の方が多い学生の感想からも、そのことがうかがえる。45分間の模擬授業を通して、実際に授業者・児童役となることで、通常の講義・演習では得られない学びがあると考えられる。

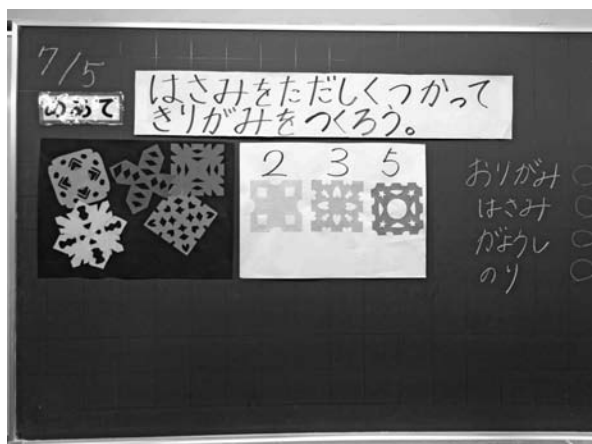
以上、平成30年度における「図画工作科教育法」と「教育実習Ⅰ（小学校）」の実践を中心として、図画工作科の授業における模擬授業指導に焦点を当てて、図工授業力の2側面、図工的教養と授業実践力の観点から分析・考察した。ただし、2つの授業の段階性・連続性を意識したとはいえ、学年が異なる学生であったため、今後もそれぞれの成長を見つつ実践・考察していきたい。初等教育学科は、教育学部に改編するため、カリキュラムも大きく変わり、図画工作科教育法も内容が変更される予定である。授業内容が変わるにせよ、教育実習を主軸とした段階性・連続性を踏まえた実践をするとともに、自身の取組を省察することによって、学生の図工授業力を少しでも向上させていきたいと考える。まずは、今年度の図画工作科教育法における代表者模擬授業の省察による気づきを、次年度の教育実習Ⅰの1講オリエンテーションで学生たちに伝えるところから始めたいと考える。

註、引用・参考文献

- 1) 佐伯育郎・徳本達夫「教師教育における模擬授業指導の現状と課題（Ⅰ）」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2016年第4号』広島文教女子大学教職センター、2016年、pp.21-40。本稿では、図工授業力の表中に小項目をさらに追加し、考察した。この表についても、今後検討を重ね、加筆・修正をしていきたいと筆者は考えている。
- 2) 図画工作科教育法における学習指導案は、教育実習Ⅰで使用する通常の学習指導案にある評価規準の表や板書計画などを省略した練習用・簡易版にしている。学習指導案の原本は、学内LANから学生にダウンロードさせている。図画工作科教育法の受講生には、印刷した学習指導案を15講で提出させる。1週間以内に全員分添削し、16講で返却する。16講では、代表者模擬授業の前に、添削後の評価、気づきを学生全体に伝える。最終講の後、添削された部分を参考にしつつ加筆・修正させ、再度学習指導案をデータで提出させている。これも、図画工作科教育法と教育実習Ⅰとの段階性・連続性を意識した取組の一環である。
- 3) 佐伯育郎・徳本達夫「教育実習指導の現状と課題 ～教科専門（図画工作）・教職専門（教育史等）の観点から～」（『広島文教女子大学 教職センター年報 2013年 創刊号』広島文教女子大学教職センター、2013年、pp.38-39）
- 4) 野口芳宏「模擬授業を使った授業トレーニングとは？」（上條晴夫責任編集『教師教育 いま、考えるべき教師の成長とはー。』さくら社、2015年、p.66）野口は、「『一時間の模擬授業』などというのは『授業トレーニング』には向かない。検討すべき要素が雑多になって協議内容が分散し、成果が見えにくくなる。だが、5分とか、10分では、あまりにせせこましく、現実的ではない。授業というものは、教師からの働きかけと、それに応える子どもの反応との相乗、相関によって進行する営みである。子どもを問題にしない一方的な教師の伝達や説明なら5分、10分でもよからうがそれは現実的ではない。15分か20分というところが標準的であろう。30分では長すぎる。」と述べている。筆者も基本的には同意見である。しかし、3年次後期における教育実習Ⅱ・Ⅲ（本実習）との接続を考えると、3年次前期における教育実習Ⅰの後半で45分間の模擬授業を一度は体験しておくべきであり、全体研究授業が不可欠であると筆者は考える。
- 5) 前掲書1）、pp.33-39。教育実習Ⅰにおける図画工作科模擬授業指導については、筆者の拙稿において詳述している。
- 6) 「またねぐせ」の原典は、NHK Eテレにおいて放送中のテレビ番組「ノージーのひらめき工房」において示された「またねぐせの法則」を視聴した筆者が記憶しており、それを引用して授業者にアドバイスしたものである。NHKのホームページ内「幼稚園・保育所向け番組のひろば」にも、保育所における実践例などが掲載されている（nhk.or.jp）。なお、全体研究授業を行う前に、2018年7月11日（水）の空きコマを利用して同じ授業者により同題材の模擬授業を15分間実施した。その際、はさみ使用時のポイントについては別の掲示物を用意して授業を実施していた（写真15～16）。その後、全体研究授業を行うことが決定し、はさみ使用時のポイントも含めた板書計画を始め、様々な部分で改編を行った（写真17～18）。全体研究授業直前まで学生同士で模擬授業の練習を行ったり、筆者が参加して助言を行ったりして、よりよい授業になるよう工夫・改善した。



【写真15～16：改編前の模擬授業における板書の様子】



【写真17～18：改編後の全体研究授業における板書の様子】

付記：教育実習Ⅰ担当の先生方のご協力があり、全体研究授業Ⅱ、及びその協議会を行うことができました。何より、立候補してくれました授業者の皆さんにも改めて謝意を表します。ありがとうございました。